

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000835		
法人名	NPO法人すばる		
事業所名	グループホームすみれ		
所在地	北見市留辺蘂町花丘22番地31		
自己評価作成日	平成24年6月4日	評価結果市町村受理日	平成24年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温根湯温泉市街地より山側に位置し、緑豊かな自然に囲まれています。建物の南側には大粉窓があり居間は明るくスペースもゆったりとくつろげる雰囲気になっています。畑で取れた野菜や山菜は、利用者の食卓に用意し、行事等の手作りケーキや料理は、食欲増進ノリハバリとなります。私たちは、利用者の残された力を最大限に活かし、生きがいのある背負い活に繋げ、毎日楽しく明るく過ごせるようお互いを支えあい生活しています。利用者が自分らしく、穏やかに過ごせるホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosjp/infomationPublic.do?JCD=0175000835&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成24年7月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れている当事業所は、緑豊かな自然に囲まれ、四季を目や肌で感じる事が出来る環境にあります。建物はL字型の平屋建て1ユニットで、共用スペースはゆったりとした造りになっており、天窓や大きな窓からの陽差しが気持ちの良い空間を作っています。庭の一角にはすみれの花が植えられ、職員と利用者が育てている菜園では、入居後、元気になられた利用者が車いすで草取り作業に参加するなど、役割・体力づくりだけではなく、生活全般への意欲にも繋がっています。職員は理念に掲げられている「自分らしく」をケアの基本として浸透し、利用者の視点に立ち、利用者の思いを大切にしたい介護実現に向け取り組んでいます。管理者は職員に事業所の運営状況・現状を伝え、風通しの良い職場環境を維持し、チームワーク重視で利用者・家族の安心した暮らしを提供しています。また、職員の向上を目指す外部研修の充実や資格取得に向け力を注いでいます。日勤は4名体制で一日を通して利用者の表情は穏やかで、すみれ体操や一日一回は全員で楽しむ時間を設けるなど、職員は常に利用者向き合い支えています。認知症の人の生活を再構築し、安心でき、元気になれるよう日々研鑽を積んでケアの質の向上を目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し管理者と職員とで共有し実践につなげている。	「長い人生の主役です 自分らしく ゆっくり ゆったり」とを事業所理念に掲げ、玄関、居間、事務所等の見易いところに掲示し、職員はケアの基本として実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の方が地域で暮らし続けられるように、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。来客を積極的に受け入れている。	町内会には加入していませんが、近隣の方が面会や畑作業の手伝いに来訪しています。馴染みの店への買い物や地域のお祭り、施設見学「山の水族館」を通して地域交流を深めています。	地域の方が訪問しやすい雰囲気づくりや町内会との交流機会、ボランティアの受け入れ等を工夫し、地域住民との繋がりが広がるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来た方等には、認知症の理解や支援の方法等を説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進員海は定期的に行っており、職員紹介や、地域のアドバイス等を受け、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は地域住民、地区住民、包括支援職員、民生委員等をメンバーとし、定期的に開催し、事業所の状況報告、ヒヤリハット等について話し合わせ、サービス向上に活かしています。また、会議を活用し、避難訓練を実施しています。	地域の理解を得る機会とし、今後も定期的な開催と家族の参加が得られるよう働きかけると共に、メンバーの工夫や会議の充実、議事録の共有を図り、更なるサービス向上に繋がるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に、事業所の状態を報告し、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者や地域包括支援センター職員と情報交換や入居申込、独居高齢者の相談等で連携を密にし、共にケアサービスの質の向上に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、ミーティングで話し合いを行っている。	管理者、職員は利用者に接する時は常に自分に置き換えたケアを心がけています。ミーティングや日々の申し送りにケアを振り返り、不適切なケアについてはその都度、内部研修を実施し、共有認識を図っています。利用者の安全確保のため、やむなく身体拘束を行う場合は家族と同意書を交わし、記録をとり、状況変化に応じて話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用については、十分に学ぶ機会が乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族には手紙や訪問時、電話で話す時を大切な機会と捉え、常に問いかけ、何でも行って貰えるよう努めています。出された意見、要望は速やかに話し合い、改善に向け取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや月1回のケア会議を行い、意見を聞いています。また、職員間のチームワークも良く、日頃から何でも話し合える関係が構築されています。管理者は利用者の受け入れや事業所の大事な決定に関しても職員の意見を活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備に努めているが、給与水準について、詳しい方針等がまだ未整備な状態がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などの参加を行い、ミーティング等で全員で確認し、把握を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を十分に取れていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。ケアプラン等に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣近所へ気軽に遊び出掛けられる環境までは整っていないが、昔馴染みのお店や、美容院等へ出掛けられるよう配慮している。	一人ひとりの生活習慣を尊重し、入居後も馴染みの店への買い物や美容院へ出掛けられるよう、また、知人の訪問受け入れや趣味の絵、畑作業が続けられるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに職員が間に入り、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本情報やアセスメント、家族からの情報、日々の関わりの中での声かけを通して利用者の思いを受け止め、その人らしい暮らしの支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個人記録があり、現状を把握できるよう、毎日申し送りをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議を開き、モニタリングする事で、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントを含め、サービス内容のチェック表に基づき、月1回のケア会議の中でモニタリング、サービス担当者会議を行い、利用者、家族の希望、意見を反映させた介護計画を作成しています。また、利用者だけではなく、不安な家族への支援も大切なケアとして介護計画に盛り込んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記載し、毎日の介護実践の見直しは出来るよう朝のミーティングで話しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応が出来るよう常にニーズは共有しており、サービスの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安全で、豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	定期的に馴染みの医師が往診に来ており、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医を基本に、往診や受診の支援に努め、職員が同行受診し、情報は手紙を添えて家族に伝えています。かかりつけ医と訪問看護は24時間対応の体制が整備されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けており、柔軟に相談し適切な介護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間対応できる医療機関とつながっており、常に情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、本人、家族、関係者と話し合い、事業所のできる事を十分に説明し、チームで支援に取り組んでいる。	指針を作成し、契約時に説明を行い、同意書を交わしています。また、段階に応じて医療機関や家族、職員と話し合い、家族の意向を確認しながら取り組んでいます。管理者は職員の医療面での知識を高め、利用者、家族が安心して最期を迎えられるよう体制づくりに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度ミーティングでの話し合いとマニュアルを作成しているが、救命救急などの定期的な訓練は乏しく今後必要とされる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は、連絡網等で整備されており、避難訓練等にも参加して頂いている。	災害時や火災時のマニュアルの見直しを行い、年2回、定期的に避難訓練を実施し、持ち出し袋や地域住民の協力を得た連絡網の整備、役割についても明確になっています。避難時の知識を全職員が周知出来るよう繰り返し(3日間)避難訓練を実施しています。	いつ起こるか分からない災害については繰り返し訓練を重ね、安全確保に努めると共に、救命救急の受講や色々な場面(地震、停電、大雪等)を想定した訓練を実施し、防災対策の強化に繋げることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の尊厳に配慮した声かけや対応、さり気ないケアを心がけ、その人らしさを支えています。また、個人記録等は適切に保管されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、耳を傾け、表情などでも読み取るよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、以前の生活と大きな変化がないように、対応していくために、本人の希望を大切に支援できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人にあつた季節感のある身だしなみの手助けや、助言、理容、美容室は本人の行きつけのお店に通っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に、食事の準備と後片付けをしている。	今までの献立を参考にメニューをつくり、職員も一緒に食事をしています。食材の買い物や後片付け、茶碗拭きなど、利用者の協力を得ています。また、自動具を使い、自分で食べられるよう工夫がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や、水分量を把握し、記録に残しており、充分確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握しており、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らす為に、一人ひとりの排泄間隔にあわせたトイレ習慣の支援をこころがけている。(排泄パターンの把握)	排泄チェック表を基に、一人ひとりのパターンを把握し、適切な誘導でトイレで排泄できるよう支援しています。おむつやパットの保管、誘導時等の声かけは職員のさり気ない配慮がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを元に、一人ひとりのパターンを良く知り、食事の工夫や、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、日中に入浴時間を設けており、利用者の方も納得している。	入浴時間は決まっていますが、週2～3回の入浴支援を行っています。利用者の状態に応じた介助方法や清拭、シャワー浴への対応、また、どのような職員と入りたいのか、出来る限り本人の希望を聞き、叶えるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の工夫した支援により、昼夜逆転しないよう、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋がすぐ確認できる場所に保管しており、一人ひとりが用法や用量について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている(畑、金魚の世話、外出等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別にあるいは、利用者の方と家族がともに出掛けられるように支援している。	天候や利用者の体調に配慮し、散歩、畑作業、外気浴など、日常的に出掛けています。地域のイベントや外出行事(置戸クラフト、山の水族館等)には全員が出掛けられるように取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者が穏やかに安心して生活できる様に、音楽をながしたり、思い出の写真を飾っている。金魚を飼育している。	共用空間はゆったりとした開放感のある造りで食堂の天窗や居間の大きな窓から日が射し、明るい雰囲気になっています。ソファの配置や壁には利用者職員で作成したパズル、行事の写真を飾り、居心地よく過ごせる空間になっており、金魚の世話は利用者の役割づくりに一役買っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、3人掛けソファや、リクライニングソファを置き、横になったり、食堂ではお茶を飲んで過ごせる空間など、ゆったり過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた物を活かし、本院が心地よく過ごせる工夫をしている。	居室には収納スペースが備え付けられ、利用者それぞれが使い慣れた馴染みの家具や花、写真を持ち込み、自分らしく安心して過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの納得できる力を活かして、混乱や失敗のないよう、自立して暮らせるように、部屋には表札を掛け、トイレなどすぐ分かる様に目印をつけている。		